
追 悼

シャーウィン先生との話

保 崎 則 雄

一昨年、Boston にて在外研究を行っていたときもそれはたしか11月の嵐の朝であった。先日ご自宅で対面したときも嵐が近づいている午後であった。嵐の思い出ばかりが残っている。

あのときは、たまたま米国に滞在していたシャーウィン先生が Rhode Island 州の Providence から Boston の我が家を訪れた。夕食時には、小学校5年の息子とずいぶん話しが合い、流鏑馬を始めたいきさつ、日本に着たころのこと、盛岡でのようすなどを楽しく語っていたことを鮮明に思い出す。その夜は、翌朝一番の飛行機に乗り遅れるといけないということで、夜通しあれやこれや、とりとめもないことを話した。途中、互いにうつ

らうつらしながら、薄暗い部屋で、神大の行く末、MITのこと、研究のこと、昔の彼女のこと、実にさまざまなことが話題になった。それも今や思い出になってしまった。

振り返って7年間、会議以外でもよく議論をした。私は彼と2人で話すときは、英語と決めていた。最初に大学で会ったときに、そうすると彼に言ったら、“That’s a good habit.” とかなんとか言っていたような記憶がある。今までいろいろな妥協もあったし、賛同もあった。そんな仲間が突然居なくなってしまった。生きている者の傲慢であるが、困ったことであり、無念である。また、よい友人関係が、過去形になってしまった。
